



万松寺

はくび通信

第 57 号
2024



もしものときに 私たちにできること

東日本大震災から13年が経過し、その間にも日本各地で様々な災害が発生しています。万松寺では震災の犠牲者への供養と被災者の復興を祈る法要を毎年営んでおり、今年も3月10日に営みました。

特に今年は、能登半島地震が1月1日に発生したことを受けて、募金活動や復興祈願護摩祈祷などで、被災地の支援を呼びかけ、多くの方々からご支援をいただきました。

また春の境内装飾では、万松寺職員全員で、復興と追悼の祈りを込めて鶴を折りました。3月28日の縁日護摩祈祷をもって、義援金や復興祈願護摩木の志納金の受付は終了しましたが、これまでのご協力に心から感謝申し上げます。

皆さまの温かいご支援は、現地の復興に役立てるために日本赤十字社を通じて送られました。

学び・備えること

私たちの住む東海地方は、南海トラフ地震が起こるといわれて久しいですが、その間に各地で非常に大きな地震が起こりました。テレビやインターネットなどを通じて被災地の状況を目にして心を痛めるのと同時に、実際に自分の身に起きたら…と不安になります。そんな不安を少しでも軽くするた

めにはやはり普段の備えが大切だと思います。

ただ、備えというものは一度しておけば良いというものではありません。諸行無常の言葉通り、物はすべて刻々と変化していますし、もしもの時に役立たなければ意味がありません。ですから、過去の災害やその対応などから学び、備えをアップデートすることが大切です。

想うこと

自分が被災地から遠く離れた場所にいるとき、何か自分にできることはないかと考えてもすぐ直接的な支援をするというのは難しいものです。しかし、被災地の人々を想い、一日も早い安寧を願うことはできます。人は自分が苦しい時に、自分を思い応援してくれる人や仲間がいると不思議と力が湧いてくるものです。

小さな一歩かもしれませんが、心から祈るということから始めてみてはいかがでしょうか？

末筆ながら被災された皆さまが復興へと向かう姿に敬意を表するとともに、心と身体の健康を心より祈念申し上げます。

令和6年能登半島地震災害義援金ご協力ありがとうございました。

募金金額 469,202円

※期間中の募金・志納金のほかに、4月7日に行いました花まつりでのご祈禱金の一部も含まれます。

将棋タイトル戦

万松寺にて

開催決定



第82期 名人戦

七番勝負 第6局

6月11日(火)

12日(水)

前夜祭 6月10日(月)

現在の名人は藤井聡太名人で初の名人防衛戦となります。

※対局状況により開催しない場合がございます。

第95期

ヒューリック杯 棋聖戦

五番勝負 第3局

7月1日(月)

前夜祭 6月30日(日)

藤井聡太棋聖が永世棋聖獲得に挑む防衛戦です。

詳細が決まりましたら、

万松寺

将棋タイトル戦特設サイトでのご案内いたします。

住職の



小囃



不安を和らげる言葉の

コミュニケーション

気候の変化や新しい環境に心と身体が疲れてSOSを出すいわゆる五月病。これも自律神経の乱れが原因といわれています。自律神経の乱れは、時に過度な不安を引きおこします。不安な気持ちが続くと、心も身体も疲れてしまうのです。

では、私たちはどの様なときに不安を感じるのでしょうか？私は、不安と感じるの自分にとつて「未知・無知」が含まれているときだと考えます。

- 相手の気持ちがわからない
- 問題の解決方法がわからない
- 将来設計の希望が見えない

今回は、未知・無知からくる不安を和らげる一つの手段として「言葉」で育むコミュニケーションについてお話します。

「言葉」は私たち人間だけが持つ特別な意思伝達の手段で、使い方ひとつでお互いの捉え方が大きく変わります。

特に身内同士では、「言わなくてもわかってくれるだろう」「聞かれた時に答えればいいだろう」などと思いがちです。で

すが相手にとっては「今日は何時ごろ帰ってくるのだろう？」「このやり方で合っているのかな？」といった小さなモヤモヤが積み重なり、いつしか大爆発するかもしれません。

そうならないために、自分の気持ちや計画などを言葉で伝えると、未知・無知が少なくなり、安心できる穏やかな関係性が育まれるでしょう。

積極的にコミュニケーションを取るのは大切ですが、相手の状況を考えた「今、話してもいいかな？」という一言や表情などの心遣いも大切です。

さらに自分の負の感情を交えないことも重要です。「何で分らないの!」「話しても受け入れてもらえないからもういい!」など、自分の思い通りにならない不満を相手にぶつけてしまうと、感情と感情が対抗し、せつかく築いた関係を崩しかねません。

人は誰もが異なる考えを持つため、時には衝突することもありますが、そんなときはゆっくりと深呼吸をして冷静になってから、自分の気持ちや要望を伝えると良いでしょう。かしこまっ

た言い方をしなくても、丁寧な話し言葉に穏やかな表情をのせて自分の気持ちを伝えることで、相手も自分の考えや気持ちを受けやすくなり、お互いをつくる

ことができるとはいえ、良いコミュニケーションを育み、不安と感じる未知・無知がすべて解消するというわけではないかもしれません。それでも、まず自分から相手に寄り添うような問いかけの言葉をかけてみる

ところからはじめてみてはいかがでしょう？家族や身近な相手だと気恥ずかしさもあつて難しいかもしれませんが、その積み重ねが良い効果をもたらし、お互いがあたたかい言葉をかけ合えるような関わり合いに変化することでしょう。

言葉を交わし、コミュニケーションが取れるようになると、相手の気持ちがわかるようになったり、知らないことを相談

合掌

万松寺住職

大藤 元裕

これからの行事

5/28 (火)

春期 不動明王大祭

28日の不動縁日の中でも縁の強い春と秋に、大祭として大般若会を行います。

将棋タイトル戦

6/11 (火) 12 (水)

第82期 名人戦 第6局

7/1 (月)

第95期 ヒュリック杯 棋聖戦 第3局

8/10 (土)

旧暦七夕

願いを込めて奉納された短冊に諸願成就の祈禱を行い、お焚き上げをします。

お盆行事

8/10 (土) 11 (日) 12 (月祝)

お盆 合同法要

8/12 (月祝) 15 (木)

迎え火 送り火

「迎え火」では、12日にご先祖様の精霊をお迎えします。「送り火」では、15日にお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りします。

8/24 (土)

施食会

ご先祖様と全ての精霊に、水の子を供え、甘露門を読経する追善供養を営みます。

不動明王 縁日護摩

毎月28日

四月から二部制になります
一部 15時~17時 二部 19時~20時
●身代わり餅つき 18時~

行事・祈禱・供養のお問合せ・お申込みは

祈禱受処 または 052-1262-10735 にて承ります。(年中無休)



仏教の豆知識



【梵字について】

梵字は主に真言宗や天台宗などの密教で使われます。起源は、古代インドの最高神ブラフマー¹梵天の創造した文字で「サンスクリット語」を表記するために使われる文字です。梵字は別名で悉曇(しったん)文字とも言われます。

■真言

梵字は一字一文字に、言葉では語り尽くせないほどの功德や意味が込められており、弘法大師空海の『般若心経秘鍵』によれば「真言は不思議なり 観誦すれば無明を除く 一字に千理を含み 即身に法如を証す」²「真言とは不思議なものである 読むことによつて無明の闇が除かれる 僅か一字の中に無量の真理を含み この身このままで真理を悟ることができる」と説かれるほど大切なものです。

この梵字を組み合わせたものが如来の御口から出る真実の言葉³

■不動明王真言

のう まく さ まん だ ば ざら だん かん
すずきんぎょに 歸命し 奉る かん

真言となります。

■種子

梵字は一字で神仏をあらわすこともできます。例えば、不動明王は⁴(カーン)と表現できまわしたものを「種子(しゅじ)」⁵種子と呼びます。サンスクリット語のビージャの訳で、植物の種を意味します。一つの種から沢山の果実が生ずるように、一字の種子は無量の功德をもたらすとされています。

たくさんの仏様の姿が描かれた曼荼羅⁶大曼荼羅を、種子のみで表現した曼荼羅⁷法曼荼羅もあります。

また、万松寺の護摩札や授与品にも種子が書かれたものがあり、それぞれに書かれた種子の仏様の力が込められています。

■梵字のしくみ

梵字も漢字や仮名と同じように部首名のようなもので成り立っています。



先ほど例に挙げた⁸は、⁹(カ)の字に菩提点と言われる一番上の点、その下のカーブを描いた莊嚴点、また右にカーブを付けた修行点といった具合です。他にも涅槃点と呼ばれる、右に二つの点を付けるものもあります。



そして梵字は、必ず発心点という、字の始まりを意味する点を打つてから書きます。

発心点¹↓修行点²↓菩提点⁴↓涅槃点³と段階を経て構成されています。

このように、梵字とは宗教上の信仰もありながら、非常に科学的でもあり、理解が深まると、ますますその奥深さに感動することでしょう。梵字はデザインの一部として身近なところでも見かけることが多いため、興味をもてばより面白い存在としてとらえることができるでしょう。

今後の御朱印

限定御朱印

四季の限定御朱印春
4月27日



四季の限定御朱印夏
6月22日
七夕限定御朱印
6月30日

月詣御朱印

5月 身体健全
6月 良縁成就
7月 必勝成就
8月 交通安全

限定印

万松寺の七夕
6月30日～8月10日
武蔵川部屋名古屋場所
7月14日～28日
孟蘭盆
8月11日～15日



大人の寺子屋

万松寺住職との
気楽なお茶会



講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

5月5日 6月2日
7月7日 8月4日

時間

10時半～12時

参加費 300円
(お抹茶・お菓子付き)



※急な行事などにより、日時・会場の変更や中止となる場合があります。

この「はくび通信」ご持参にて
1回無料でご参加いただけます

万松寺の仏教講座



坐禅会
毎週日曜日 9時～10時

写経会
毎月第2土曜日 16時～17時半

写仏会
毎月第1・3土曜日 16時～17時半

仏教勉強会
毎月第4土曜日 16時～17時半

参加費 500円

お申し込み・お問合わせ

WEB

万松寺学び舎

電話

052-262-10735

検索



万松寺日記

信秀忌

令和6年3月3日(日)
織田信長公の父で、万松寺を建立した織田信秀公の命日に、追悼法要を営みました。

今年も、信長公が桶狭間の戦いへの出陣前に清洲城で舞った天下の舞「敦盛」を信長幸若舞保存会の皆様が奉納しました。

また同じく信秀公を父に持ち、武家茶道を嗜んだ織田長益公(別名:有楽齋)の直系、有楽流宗家十七代家元 織田宗裕宗匠による「献茶」が行われました。

災害物故者追悼法要と炊き出し訓練

令和6年3月10日(日)

今年1月1日に能登半島を襲った地震で犠牲となられた多くの命を悼み偲び、被災された方々の心と身体の健康と復興を祈念する「能登半島地震災害物故者追悼法要」ならびに、災害物故者や被災動物の追悼供養として「諸々災害物故者追悼法要」を併せて営みました。

災害を想定した炊き出し訓練を万松寺職員が行い、「精進カレー」を提供するとともに、能登半島地震義援金を募りました。

令和6年3月19日(火)
旧暦初午の日に、白雪稲荷のご真前にて、五穀豊穡・商売繁盛の祈禱を行いました。

初午会

令和6年3月19日(火)

旧暦初午の日に、白雪稲荷のご真前にて、五穀豊穡・商売繁盛の祈禱を行いました。



春彼岸合同法要

令和6年3月22日(金)

23日(土)

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなることされる彼岸の時期に、追善供養を営みました。



花まつり・降誕会

令和6年4月7日(日)

8日(月)

境内で、花御堂(はなみじょう)の誕生仏に甘茶を灌ぐ花まつりを行いました。

降誕会当日は、お釈迦様の誕生を祝し、報恩感謝の法要を営みました。



開山忌

令和6年4月22日(月)

織田信秀公の叔父で、万松寺初代住職 大雲永瑞大和尚の命日に、追悼法要を営みました。

春姫忌

令和6年4月23日(火)

初代尾張藩主正室春姫様の命日供養を営みました。



春期 不動明王大祭

5月28日(火)

10時から15時

信長の窮地を救った霊験あらたかな「身代不動明王」が身代わりとなり、護ってくださいます。

◆ご希望の願目を祈りたいします。

- ・厄難消除・無病息災
 - ・病氣平癒・身体健全
 - ・家内安全・交通安全
- など

◆大般若 一万円

(御守 身代わり餅)

◆祈 禱 五千元

(木札 身代わり餅)

ご予約は 総合受処 電話 WEB にて承ります

【お詫びと訂正】

はくび通信台56号に左記の誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

◆1頁 信秀忌日時表記

(誤) 3月3日(金)

(正) 3月3日(日)

◆3頁 僧侶が教える仏教の豆知識

文中使用名称

(誤) 釈迦涅槃会図

(正) 釈迦涅槃図